

子どもの学びの四半世紀

1990年から2015年

「第5回学習基本調査」によせて

2016年1月28日

お茶の水女子大学 教授 耳塚寛明（教育社会学）

学習基本調査の特徴

- 四半世紀という長い期間、子どもたちの学習行動と意識を追跡可能な、唯一の調査
 - 90年代からの四半世紀をカバーする小中学生対象の調査は他に類を見ない
 - 高校生に関する類似の調査もほとんど存在しない
- この四半世紀は教育界にとっても激動期であった
 - データブック 28～29頁
- 学習基本調査は「時代のスナップショット」

第4回調査までの風景を振り返る

データブック 28～29頁

第1回 1990

- 試験地獄 詰め込み教育批判 ゆとり教育を待望

第2回 1996

- ゆとり教育 新しい学力観と個性尊重

第3回 2001

- 脱受験競争時代 学習離れ

第4回 2006

- 『学びのすすめ』(2002) ゆとりから脱ゆとり路線へ 教育格差の告発

第5回 2015

- 学力保障の時代 学びへの回帰

脱受験競争時代から

学びへの回帰へ データブック 10～11頁

- 2001年第3回調査まで子どもたちの学習時間は減少を続けた
 - ①「少子化による受験競争の客観的緩和」
 - ②「学歴志向や学習の価値を相対化する言説の浸透」
 - ③いわゆる「ゆとり教育」
- 2006年第4回調査では、小中学生の学習時間は増加に転じ、2015年第5回調査ではなお増加
 - 高校については小中学校とは異なり第4回までは回復傾向を見せなかったが、今回は大幅な増加
- 総じて1990年代以降少なくとも10年以上にわたって続いた学習時間の減少には完全に歯止めがかかり、90年代初頭の水準近くにまで回復
- 学力保障の時代が本格的に到来

学習習慣も定着

データブック 14頁

- 中高校生 家ではほとんど勉強しない生徒の減少と、ほとんど毎日勉強する生徒の激増
- 各教科を好きと答える児童生徒の増加（データブック4頁）、授業の主観的理解度の向上（同5頁）、テスト勉強の開始時期の早期化（同15頁）、家での学習態度の向上（同16頁）
- これらも学びへの回帰を裏付ける現象

勉強の効用と社会観の変化

データブック 22～23頁

- 全体に勉強が役に立つという回答が増加
 - 「お金持ちになるために」「一流の会社に入るために」役立つという、学習の手段的ないしは外在的効用認識が高まっている。「いい大学を卒業すると将来幸せになる」という回答も増加
 - 同時に「心にゆとりがある幸せな生活を送るために」「尊敬される人になるために」「よいお父さん、お母さんになるために」「社会で役に立つ人になるために」勉強は役立つという回答も増加
- 学びのすすめ以降の学力保障の時代になって、「学歴志向や学習の価値を相対化する言説」が形を潜め、その価値を強化（教化）する言説が支配的に？

能動的な学習をめぐる

データブック 7~8頁

- 「個人で何かを考えたり調べたりする授業」「グループで何かを考えたり調べたりする授業」「自分たちでテーマや調べ方を決めてする授業」「友達と話し合いながら進めていく授業」「考えたり調べたりしたことをいろいろ工夫して発表する授業」
 - おおむねどの項目についても「好き」と答えている児童生徒が増加傾向
 - とりわけ、高校の上位階層において「好き」という回答が非常に増加 高校での課題研究や探究的学習の導入を功を奏した可能性
- しかし、能動的な学習への転換が順調に進んでいると考えることはまだできない。学校段階が上がるにつれて実施率の低下が目立つ。高校での取組の推進が現下の課題

教育格差は縮小したか

平日学習時間の家庭的背景による差

表1 平日の平均学習時間の家庭の学歴による差異

		平日平均学習時間(分)	
小学生	1990	短大・大卒	98.4
		非短大・大卒	77.1
		大卒／非大卒比率	127.6
	2001	短大・大卒	81.0
		非短大・大卒	62.4
		大卒／非大卒比率	129.8
	2015	短大・大卒	112.7
		非短大・大卒	86.1
		大卒／非大卒比率	130.9
中学生	1990	短大・大卒	108.0
		非短大・大卒	90.5
		大卒／非大卒比率	119.3
	2001	短大・大卒	86.7
		非短大・大卒	73.9
		大卒／非大卒比率	117.3
	2015	短大・大卒	96.1
		非短大・大卒	85.8
		大卒／非大卒比率	112.0
高校生	1990	短大・大卒	106.5
		非短大・大卒	87.3
		大卒／非大卒比率	122.0
	2001	短大・大卒	73.6
		非短大・大卒	61.3
		大卒／非大卒比率	120.1
	2015	短大・大卒	92.8
		非短大・大卒	73.5
		大卒／非大卒比率	126.3
短大・大卒 家の人の中に大学や短期大学を卒業した人がいる			
非短大・大卒 いない			
大卒／非大卒比率 非短大・大卒の平均学習時間を分母とした短大・大卒の指数			

- ①高学歴家庭の児童生徒ほど学習時間が長い
- ②学歴による学習時間の差は、小学校と高校で相対的に大きく、中学で小さい
- ③小学校と高校における学歴差は第1回調査時点以降維持され（微増傾向）、中学校における差は縮小傾向
 - 平日や休業期間の学校による補習等による底上げ指導、あるいはNPO等による学習支援や居場所作り等の取組の成果か？
- 十分な検証と、今後の継続的な監視が必要